

# 劇団四季「バック・トゥ・ザ・フューチャー」 まぶしい青春のきらめき

2025/05/08 05:00 日本経済新聞電子版

1985年のヒット映画（第1作）がミュージカルになり、四季による日本語版としてお目見えした。英国生まれ、2022年にオリヴィエ賞最優秀新作ミュージカル賞を受賞した話題作だ。若さあふれるダンスシーンが、舞台ならではの魅力を輝かせる。

物語は映画のとおり。時計台のある町で暮らすマーティが、変人科学者ドクの造る自動車のタイムマシン（デロリアン）で時間旅行に出る。着いた先の1955年で、結婚前の両親と出会う……という話。B・ゲイル（台本）、R・ゼメキス（共同創作）、A・シルヴェストリ（作詞・作曲）が映画そのままに制作に参加、J・ランド演出。

映像を駆使したデロリアンの疾走、客席にはりだす電子部品の回路図のような照明、機械音のピコピコ——視聴覚を刺激する演出に驚かされるが、妙味はやはりダンスと歌唱にあるだろう。未来の息子にときめくティーンの母がおかしい。ダブルキャストのうち海沼千明でみて、青春のきらめきがまぶしかった。「プリティ・ベイビー」の歌唱がまっすぐ。母の恋の発熱は、人生の大切な何かを思い出させもするのだ。

映画ゆかりの「パワー・オブ・ラブ」が客席をわかせる。チャック・ベリーの「ジョニー・B.グッド」は少し先取りながら、一気に時代の風を呼び込む。「21st・センチュリー」のノリがいい。チーム力が際だつ四季だから、上演を重ねるごとに群舞のパンチカも増すだろう。

ロカビリーとダンスパーティの時代、それはかの国の黄金期だ。「アメリカよ、どこへ行く」と言いたくなる現在だけに、お気楽なあのころを味わいたい。大いに笑いのめそうじゃないですか。四季劇場〈秋〉でロングラン上演中。（編集委員 内田洋一）

許諾番号 30103914 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。  
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。  
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。  
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.